平成３０年９月１日

「 神 輿 練 習 会 」

1　日本の神々のルーツ

伊勢神宮では、内宮にて祀られているのが、 天皇家の祖先にあたる天照大御神(あまてらすおおみかみ)です。 外宮にて祀られているのが、紀元 500 年頃、丹波の国(京都府)から移された衣食住の神である 豊受大御神(とようけおおみかみ)です。

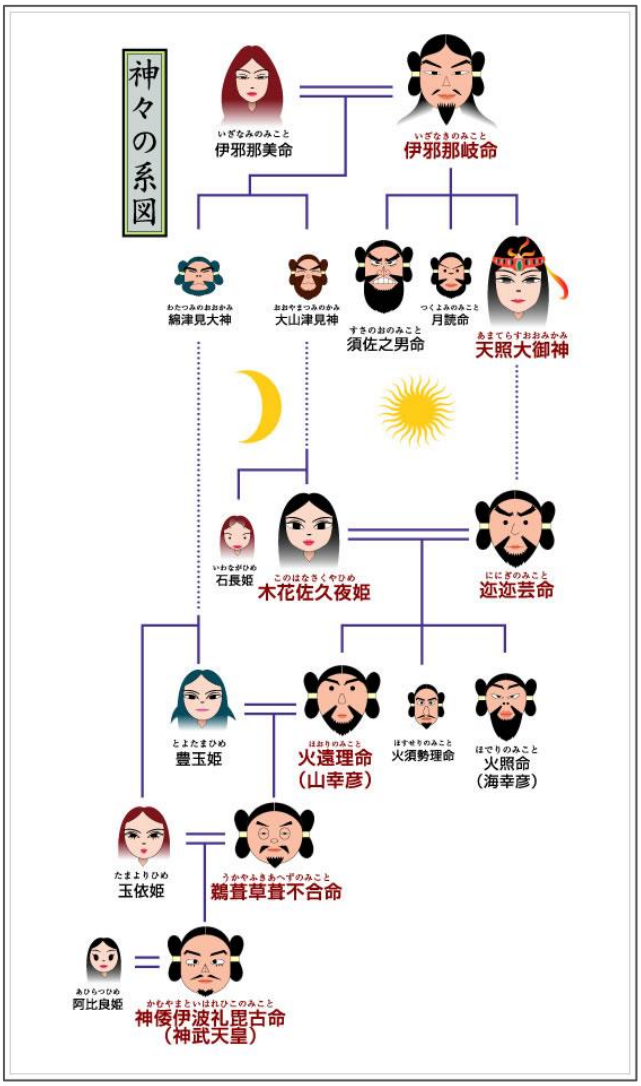
「古事記」によると、天照大御神は初代天皇として位置付けられている神武天皇の５代前の祖先にあたります。神武天皇以前は神代という、我が国の神話の中で、神の治めた時代でした。伊勢神宮で天照大御神を祀るということは先祖礼拝をして子孫繁栄を願っているということになるのでしょう。

自然と神とは一体として認識され、神と人間を結ぶ具体的作法が祭祀であり、その祭祀を行う場所が神社であり、現在は、今上天皇（平成天皇）により、祭祀が行われており、天下泰平、五穀豊穣、皇室の安泰、万民の平安が祈られる。

2　七社神社

七社神社の創建時期は、寛成五年(1793)の火災により古文書、古記録等を焼失したため詳らかではないが、翌年 9 月秋分の日に御社殿は再建されたため、大祭日と定め、現在も例祭が執り行なわれている。

（御社殿）伊邪那岐命、伊邪那美命
（末社）天祖神社（天照大神を祭る神社）
天照大御神、豊受大御神



3　御神輿とは

「輿」とは、人を乗せて人力で運ぶ乗り物のことで、神様が乗るので、「神輿」といい、神道の祭の際に、普段は神社にいる神霊が氏子町内へ渡御するに当たって一時的に鎮まるとされる輿である。

神社の神輿を一般に「本社神輿」や「宮神輿」と言い、氏子町会が神輿を持っている場合はこれを「町会神輿」と呼ぶ。

4　用語集

○御霊入れ（みたまいれ）・・・神輿に神様を遷（うつ）す儀式。（実際は人型の和紙）

○神酒所（みきしょ）・・・　神々に神酒をはじめとする神饌をお供えする場所。

○木頭（きがしら）・・・神輿担ぎのきっかけを作るのに最初に拍子木を打つ頭。
もとは歌舞伎・文楽で幕切れや舞台転換時に打つ拍子木の最初の音。きっかによって拍子木を打つ。

○馬・・・神輿を置いておく台。

○差（さ）す・・・神輿を上へ高く上げる。神輿(神様)を「差し上げる」の意味。

○直会、鉢洗い・・・神事の最後に、神饌としてお供えしたものをおろし、参加者でいただくという行事で、神と共食するという意味があります。

○花棒・・・神輿を支えている台棒のうち、真ん中の棒の前の部分です。

○脇棒、側（そで）棒・・・花棒以外の台棒。

○トンボ・・・神輿の担ぎ棒である親棒と脇棒をつなぐ、横棒の事。

○高張提灯（たかばりちょうちん）・・・提灯を長竿の先に取り付け、先頭に高く掲げ、目印とするもの。

○役半纏・・・神輿を仕切る物が着用する半纏。

○手締め・・・日本の風習の一つで物事が無事に終わったことを祝って、掛け声とともに打つ手拍子である。拍数の「3回・3回・3回・1回」は3回の拍が3回で九になり、もう1回手を打つと九に点が打たれて「丸」になり「丸く納まる」の意味。

○宮神輿・・・神社に備わる神輿をいう。（七社神社にはない。）

○宮元・・・神社側近の町会。（日本榎町会）

○宮出し・・・神輿を神社の境内から担ぎ出す事。

○宮入り・・・神輿を神社の境内に担ぎ入れる事。

○宵宮（よいみや）・・・祭礼の前日夜に行われる神輿渡御。

○頭外せ・・・頭に巻いている手ぬぐいを外せということ。神聖な場面なため。

○法被・・・半纏と違い、お店のセールに着るような薄手の赤、青の羽織。

○雪駄（せった）・・・草履の裏に金属の金具が付いているもの。（雪の上での滑り止め。）

○渡御（とぎょう）・・・神輿、山車を巡行させること。

5　神輿渡御でやってはいけない事

○　２階以上から見下ろしてはいけない。（神様を見下ろすことになるから。）

○　決められた半纏以外ではかついではいけない。（他町会の神輿は担げない。）

○　神輿の写真を断りなく撮ってはいけない。（声がけして、許可を取ってから。）

○　神輿に勝手に触ってはいけない。（神聖なものだから。）

○　神輿に乗ってはいけない。（神様が乗る物だから。）

○　神輿を地面においてはいけない。（神様が乗るもので、我々よりも高い位置で馬に）